

平成31年3月23日

地域密着型サービス運営推進会議報告書兼議事要旨

厚生労働省令第34号（平成18年3月14日）第108条の規定に基づき、平成31年3月18日に運営推進会議を開催したので、その記録を作成し、これを公表します。

千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

設置主体) 株式会社 相生

代表者) 代表取締役 萩原 将之

事業所及び事業主体の概要

【事業所】 ゆうなぎ九十九里

(認知症対応型共同生活介護 通称：グループホーム)

(介護保険事業所番号) 1275900213

(所在地) 〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1

電話0475(70)7333 FAX0475(70)7335

(開設年月日及び共同生活住戸と利用定員)

平成17年10月 1日開設、利用定員9人(一番館)

平成23年 4月 1日開設、利用定員9人(二番館)

【事業主体】

〒299-4216 千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

(商号) 株式会社 相生 (かぶしきがいしゃそうせい)

(代表者) 代表取締役 萩原 将之

電話0475(36)5711 FAX0475(36)5712

運営推進会議の概要

日 時：平成31年3月18日 13時40分から14時40分

会 場：当ホーム一番館のたたみスペース

出席者：運営推進会議の構成

当ホーム

- ・設置主体) 株式会社相生 代表者) 代表取締役 萩原 将之
- ・計画作成担当者 内山 貴司 (二番館担当、介護支援専門員)

委 員

- ・ 地 域 住 民 2名 (近隣の住民)
- ・ ちどりの会 (ボランティア団体) 1名
- ・ 当町地域包括支援センター 1名
- ・ 当町健康福祉課職員 1名

(議題)

1. 入居者情報
2. ゆうなぎかわら版の内容について
3. 入居者について

(議事要旨)

前回の運営推進会議（1月21日）から今日までの施設や入居者の様子について、説明を行う。また、『ゆうなぎかわら版2月号、3月号』の解説を行う。

1. 入居者情報 平成31年3月18日現在

一番館：男性1名 女性7名 小計8名

二番館：男性6名 女性3名 小計9名

計17名・うち九十九里町内の入居者は12名

内山) 一番館には現在8名が入居している。二番館は満床の状態である。年齢区分では、90歳以上が5名と最も多く、要介護度別では、要介護3が6名で最も多い。被保険者数では当町が12名、白子町と茂原市が1名ずつであり、大網白里市が3名である。

2. ゆうなぎかわら版の内容について

今回は2月号と3月号について、説明をする。

内山) 2月号では、大晦日と元日の様子を掲載。また2名の入居者の誕生会を実施した。3月号では2月の様子を主に掲載。昼食に恵方巻きを召し上がっていただいた後、両館にて豆まきを実施した。また当社「ゆうなぎ白子」へ外出をした時の様子も掲載している。2月号の冒頭文では、小関納屋で開催された「認知症サポーター養成講座」について、3月号では介護保険更新の際の認定調査についての私なりの考えを述べている。

萩原) 年越しそばは、毎年私が作ったものを入居者に召し上がっていただいている。大晦日の前に揚げ物を提供している場合等は、天ぷらを提供しにくいところもあり、前はカレーそばを提供した。長ネギを添えたが入居者の中には『なぜ、長ネギを入れるのか、カレーには玉ねぎではないのか』とおっしゃる方もいた。今回は卵とじそばにしてみた。正月の煮物についても、私が手作りしている。外部に注文をすることもあったが、入居定員が18名と少なく、注文するとかえって収支が合わないことがあり、5、6年前から私が手作りしている。下手の横好きで、NHKのきょうの料理のテキストを見ながら作るのだが、手前みそだがなかなか好評である。これら正月の煮物は、職員が朝食等に簡便に使用できるようにとの思いから、事務所の冷蔵庫内に用意をしている。

大体4日間程度で使い切っている。種類は、さといも、にんじん、ごぼう、はす、しいたけ、こんにゃくである。こんにゃくは噛みにくいためか、最後まで残ってしまう傾向にある。

内山) 入居者の中には、食に対して強いこだわりをもっている方もおられる。以前「食パンであれば食べるが、菓子パンを食事として食べることは考えられない」とおっしゃる方もいた。

萩原) 先ほどの内山の説明にあった「ゆうなぎ白子」についてであるが、これは当社が経営する白子町の指定を受けたグループホームのことである。ゆうなぎ九十九里の外出先のひとつとして現在利用をしている。明日2名が入居をする予定である。今後は、ゆうなぎ白子の入居者を当ホームにお連れするのもよいかと思っている。入浴や食事を拒否されたとしても、場所、雰囲気を変えることによって、そのようなことが緩和されるのでは、と期待をしている。

内山) 節分の豆まきの際に、小袋に入っている豆を皿に用意して入居者に持ってもらった。すぐに袋を開けて食べてしまう方がおられた。当日は私が鬼の役であったが、ほとんどの入居者は鬼に豆をぶつけることはせずに終えている。

委員) 本来は、玄関等に豆をまくのが正しいやり方である。鬼に豆をぶつけることは、幼稚園や小学校でのみ行われていることである。

内山) 来年の節分では、そのようにしてみたいと思う。

内山) 3月号で述べているが、認定調査の際には入居者のできないことのみを調査委員に伝えていることが多いように思われる。入居者本人が調査員と話をしている時には、車椅子を利用している方でも「自分でトイレにいける、風呂にひとりで入ることができる」と答えていることがある。そのため職員が後に正確な状態を説明している。認定調査の性質上、入居者がひとりでできると判定が出た場合、要介護度にも影響がでる。できないことを伝える一方で、はたしてこれでよいのだろうかという思いもある。認知症であったとしても、「いつもと何かが違う」という思いは、入居者の中に存在している。具体的には、夜勤者がいつもより一人多い、いつもいる人（入居者）がいない等。それらが原因で不穏になる場合もある。説明をするも納得をされない場合や納得をしたとしても、すぐに忘れてしまうことが多い。

委員) 入居者には、深く説明を行わず、「今はいないよ」等一言で伝えた方がよいのではないだろうか。

【日帰り帰郷事業の件】※『備忘録』を委員へ配布

萩原) これまでの運営推進会議において、入居者の日帰り帰郷事業を計画していることを話しているが、先日、本人と私、職員2名で沖縄へ行った。配布した備忘録は社内での閲覧用にと記録をしたものであるため、背景や前提について社内では公知であるため、読みにくいところや、語彙、言い回し等についてはご容赦願う。今回の旅を通して、ハンディキャップを有する者の旅が、いかに大変なのかを痛感した。航空会社の地上職員の対応について、かなり熟練をしていると思った。しかし搭乗口から出口まで600メートル程徒歩で移動（入居者本人は車椅子を使用し、地上職員に押してもらっていた）しなければならない場面もあった。また実際に沖縄に到着した時に車椅子の操作をしたが、滑りやすく転倒するのではないかと思う場面もみられた。この帰郷で45年ぶりに本人の親類に再会することができた。

委員) こちらに戻ってきてからの様子はどうか。帰りたいという訴えは聞かれていますか。

萩原) 聞かれています。

内山) 特に様子は変わることなく、先日も買い物後に「俺は帰りたい」という訴えが聞かれた。顔は笑っており、数回の声かけで居室に戻られている。その後も強行に外に出るなどの行為はみられていない。

萩原) 本人の中で「親族に助けってもらって、沖縄で生活をしたい」という思いよりも、「もう一度沖縄の地を踏みたい」という思いの方が強かったのではないかとと思われる。

委員) 本人の思いを満たすことができ、よかったのではないだろうか。最後に次回の運営推進会議の開催日については、当会議が事業年度毎に計画されており、本日が平成30年度最終回であること、4月以降の新年度、すなわち平成31年度の計画が立案中であることから、決定することができない。しかし、新年度第1回はこれまでの開催スケジュールを勘案し、月曜日の午後、5月中旬を予定していることを伝え、本日の議事録配布時に次回会議日程を知らせることとし、散会した。

【平成31年度運営推進会議第1回日程】

※平成31年度運営推進会議第1回は、5月20日（月）13時30分からと
します。ご多忙のところ恐れ入りますが、みなさんのご参加をお待ちしており
ます。

以上

本件のお問合せ先

グループホーム ゆうなぎ九十九里

内山 貴司

電話 0475-70-7333